

北方民族博物館だより No.53

目次 CONTENTS

2 企画展

企画展関連講演会

北海道博物館紀行②

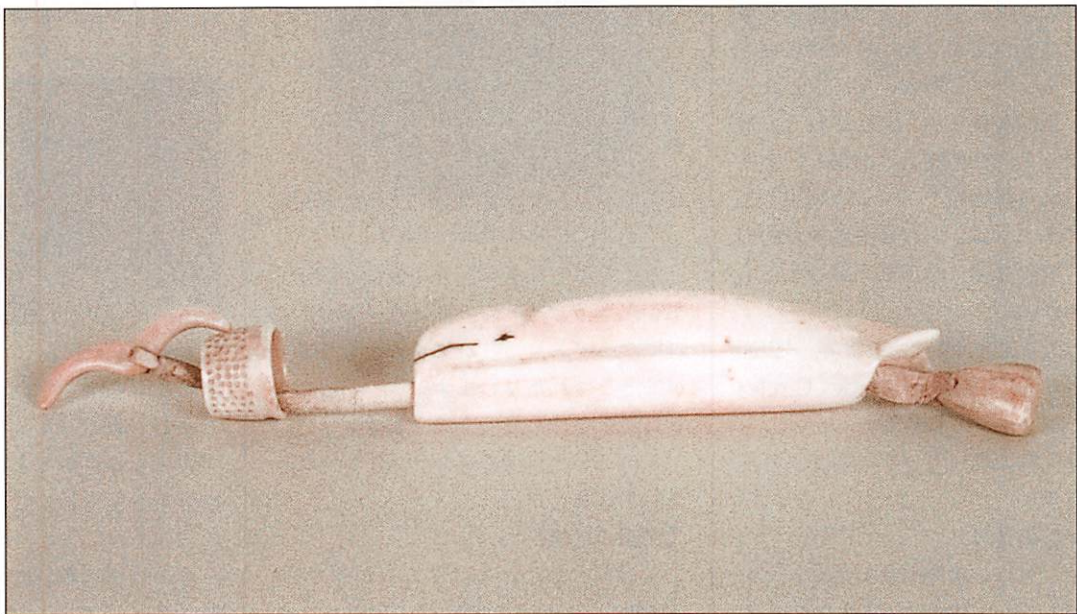
4 INFORMATION

セドナの箱

～オーロラの下のシャマンと民話の世界から～

シベリアの猿蟹合戦 広がる民話の世界

足寄動物化石博物館



H1. 74. 3 クジラ彫刻付き牙製針入れ (21.5cm)
(イヌイト アメリカ/アラスカ 1990年代中頃)

寒冷な北方地域を生活領域としてきた人々にとって、自らの身体を覆い体温を保つ工夫は不可欠である。彼らの生活の中で衣類の製作に注がれた労力はかなりのものであったであろう。衣類を作るあるいは衣類の修繕に関わるのは主に女性の仕事であった。

今号の表紙はイヌイトの裁縫用の針を納める針入れである。先端のホルダーに指貫が付けられている。北方地域の衣類はトナカイや海獣類などの毛皮を素材として作る。縫い糸には毛皮獣の背中と尾からとれる腱を利用し、その繊維を撚りあわせて糸にする。そうしてできた強靱な糸を針穴に通し、皮に刺して縫い合わせてゆく作業には、指貫は必需品であった。

布あるいは皮に針を刺し、筒で覆うタイプの針入れは、サミヤ北海道アイヌ、千島アイヌにもみられ、北方地域の広範囲で知られる。



北海道立北方民族博物館

Hokkaido Museum of Northern Peoples

企画展 セドナの箱～オーロラの下のシャマンと民話の世界から～

2/7(土) - 3/28(日) 当館特別展示室

関連講座 シベリアの猿蟹合戦 広がる民話の世界

講師 斎藤 君子氏(ロシア民話研究家) 2/14(土) 13:30-15:00 当館講堂

2月7日から3月28日にわたり、平成15年度企画展『セドナの箱～オーロラの下のシャマンと民話の世界から』を開催しました。

「セドナの箱」は、当館友の会季刊誌 Arctic Circle(アークティック・サークル)に連載された、大林太良初代館長のエッセイタイトルです。Arctic Circle発行50号を記念し、このエッセイを道標にしなが、北に暮らす人々の独特な精神世界へ案内しようとする内容の展示でした。

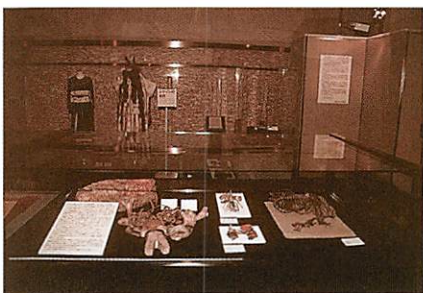
また、当館友の会は、来館される方だけではなく、直接博物館へお越しただけの方にも博物館をよりよく利用していただけるようにという事を設立目的の一つとしており、この活動を紹介しますのもでもありました。

展示は大きく「シャマンの世界」「仮面の世界」「民話の世界」「Arctic Circle」の4つのコーナーで構成しました。

(斜体は大林太良「セドナの箱」より一部分を引用)

【シャマンの世界】

シャマニズムの語根となったシャマンが実はツングース語から由来しているように、北方ユーラシアと中央アジアはまさに世界におけるシャマニズムの本場であった。(Arctic Circle 4号 シャマンと靈魂より)



ナーナイとウイルタのシャマンの衣装、シャマンの道具である太鼓やばち、コリヤークのまじない具などを展示しました。あわせて、ロシアの民族学者A.V. スモリヤーク氏が今から30年ほど前に、アムール流域で撮影した写真を掲示しましたので、実際のシャマンの様子などもお伝えできたかと思えます。

【仮面の世界】

世界の採集狩猟民のなかでも北太平洋地域の人たちは、他とはちがう大きな特徴をもっている。それは儀礼用の仮面を作ったり使用したりすることである。

(Arctic Circle13号 北太平洋は仮面の宝庫)より



シャマンの仮面/イヌイト

ここでは主にイヌイトの仮面を展示しました。イヌイトの仮面は木、鯨骨が材料になっており、これに鳥の羽や象牙嵌がほどこされたりします。ラブレット(口唇具)をつけた仮面もあります。

このほか北西海岸インディアンの仮面を展示しました。

【民話の世界】

シベリアのなかではアムール河の中・下流域と沿海州の地域は、いささか変わった地域である。シベリアの他の地域に共通の北方的な狩猟民的な文化が広がっている一方で、それとともに中国南部や東南アジアの農耕民の伝承や習俗を思い出させる要素がいろいろ見いだされるからだ。

(Arctic Circle 17号 北の歌垣より)

まず北西海岸インディアンの民話によく登場するサンダーバードをモチーフとした資料を展示しました。サンダーバードは頭の角が目印の、まばたきをすると稲光が発生すると言われている伝説上の鳥です。

また、「セドナの箱」の文章に添ってアムール流域の民話・絵本を展示したほか、風間伸次郎氏(東京外国語大学)の調査成果から、因幡の素兔や猿蟹合戦といった日本の神話・民話に似た話がアムール流域に暮らすナーナイにもあることを紹介しました。

呉人恵氏(富山大学)が採録したコリヤークの民話絵本「ワタリガラス」の、原画とお話を紹介したほか、同氏と津曲敏郎氏(北海道大学)から民話の音声、テキストデータの提供をいただいて、コリヤークとウデへのコンピュータ絵本を作成・公開しました。北方の民話はもともとは口伝されていたものですので、実際の音声を展示会場でも楽しんでいただけたことでしょう。



【Arctic Circle】

このコーナーでは、これまで発行された49号(表紙写真は13名の写真家、民族学者によるものです)すべてを展示し、閲覧用も用意しました。

前述したように、北方の言語研究では日本の言語学者が活躍しており、その活動をArctic Circleでは長年にわたり紹介してきました。この連載は「北の言語フィールドノート 18の言語と文化(北海道大学図書刊行会)」にまとめられているなど、Arctic Circleが友の会季刊誌にとどまらない利用をされていることも紹介しました。

なお、Arctic Circleの列品には、博物館実務実習のプログラムとして北海道東海大学生二名があたりました。

展示タイトルになったセドナとは?という質問をよく寄せられました。セドナはイヌイトの民話に登場する海獣の女神の名前ですが、ちょうど企画展開催中に発見された小惑星の名称にセドナとつけられたことで、少しは認知度もあがったかと思えます。

今後も当館では友の会に限らず、さまざまな博物館利用方法の提供を模索してゆきたいと考えています。

本展の開催に際し、次の個人、機関よ

りご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

資料館ジャッカ・ドフニ、津曲敏郎氏、呉人恵氏、渡辺己氏、斎藤君子氏、宮岡伯人氏、風間伸次郎氏、かりん舎、小林重予氏、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「環太平洋の〈消滅に瀕した言語〉にかんする緊急調査研究」

関連講演会

2月14日には、企画展にあわせ、ロシア民話研究家の斎藤君子氏を講師に「シベリアの猿蟹合戦 広がる民話の世界」を開催しました。

次に講演会の概要について紹介します。



シベリア民話の特徴は、人びとがほんとうにあったことと信じていることにある。民話は単に娯楽ではなく、もっと真剣なものであり、民話の主である精霊を喜ばせるために語られている。

民話が語られる場面は、例えば宿を借りたとき、狩りをするときなどで、一人きりで狩猟をするときにも民話が語られることから、語りの相手が人間に限らないことがわかる。素晴らしい語りをする^やと精霊が喜び、ご褒美（長命や獲物等）を授けてくれると信じられている。また、例えばカムチャツカのチュクチの「魔物退治の話」では、語り手が語り終わりに「私は風を退治した」と結ぶ。魔物とは悪天候のことであり、この民話を語ることによって、実際に風がやむようにという願いがこめられている。

シベリア民話には意外にも日本民話に繋がる話も多い。例えば猿蟹合戦は、日本ではカニ、栗、臼などが登場するが、ナーナイでは、シジュウカラ、ドングリ、木槌などになっている（他の動物の場合

もあります。）。猿蟹合戦の話は従来、中国や東南アジアが起源とされてきたが、中国の民話では道具が擬人化されることはなく、道具が擬人化されて登場するという点ではむしろシベリアと関係が深いと思われる。シベリアのお話は、ナイフや槍といった道具までもが擬人化されて登場するのが特徴である。これはシベリアの人びとが持つ人間も動物も道具も同じくすべてのものに霊があり、対等であるという意識からきているためである。

ちなみに猿蟹合戦は前半と後半の仇討ちの話がもともとは別だったのが一つになったと考えられている。

シベリアとの関係で注目している話に「おむすびころり」がある。この話自体はシベリアには無いようだが、ネズミが集めたものを人間がもらってくるという内容はシベリアに見られる習俗につながるものではないだろうか。

（学芸課 笹倉 いる美）

北海道博物館紀行②「足寄動物化石博物館」

講師 澤村 寛氏（足寄動物化石博物館館長） 1/17(土) 14:00-15:30 当館講堂

「北海道博物館紀行」は道内各地で特色のある活動をしている博物館・資料館などを取り上げ、その魅力を紹介していく企画です。第2回目の今回は、足寄町の「足寄動物化石博物館」を取り上げました。澤村館長にお越しいただき、足寄動物化石博物館の紹介と化石のレプリカ（複製）作りを指導していただきました。

足寄動物化石博物館の展示室は、「足寄動物化石群」、「謎の海岸生活者 デスマスチルス」、「海に帰った哺乳類 クジラ」、「足寄で見る地球の歴史」の4つのテーマに分かれており、それぞれ足寄町で発見された化石やデスマスチルスと呼ばれる絶滅した動物、クジラなどの海生哺乳類、そして足寄周辺の自然史を紹介しています。なかでもデスマスチルスの展示は特徴的で、世界でも8体のデスマスチルスの骨格標本を同時に展示している博物館は他にありません。また、展示室に隣接する化石工房では、化石のクリーニング作業を間近で見学することもできます。

今回の博物館紀行では、最初に、用意していただいた型を使って化石のレプリカづくりをおこないました。型はシリコンゴム製で、アンモナイト、三葉虫、サメの歯、デスマスチルスの歯などの種類があります。参加者は好きな型を選び、石膏の粉を水で溶いて型に流し込みます。そして、型をテーブルに軽く叩きつけて、なかの空気を抜きます。

石膏が固まるまでの間、講師によって足寄動物化石博物館の活動やクジラに関するさまざまな話題が紹介されました。クジラの大きさを表現するのに、列車やジャンボジェット機、マンモスなどと比較したり、クジラの形態的な特徴として鼻孔が頭の上にあることや後肢がないことなどを模型で説明してみたりするなど、子どもたちにもわかりやすく、親しみやすいお話でした。

そして約一時間後、石膏が固まったら型から外して完成です。足寄動物化石博物館には、このレプリカに着色するメニューなども用意されていますが、今回

は時間の関係で石膏の白い色のままの出来上がりになりました。

当日は親子連れなど18名の参加者がありましたが、比較的簡単な作業の割に本物そっくりのレプリカが出来上がったのに驚いておられる様子でした。



※足寄動物化石博物館

〒089-3727 北海道足

寄郡足寄町郊南1丁目

Tel. 01562-5-9100/Fax. 01562-5-9101,

E-mail:staff@museum.ashoro.hokkaido.jp,

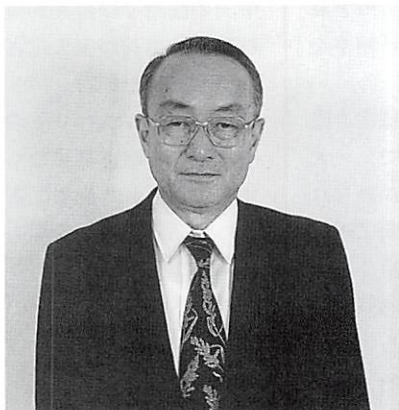
<http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp>

休館日/毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始

開館時間/9:30-16:30

料金/大人300(250)円、小学生・中学生・高校生・満65歳以上200(150)円(幼児、足寄町内の小中学生・満65歳以上の方の観覧は無料) *かっこ内は20名以上の団体 (学芸課 中田 篤)

第二代館長 岡田宏明氏 逝去



当館第二代館長の岡田宏明先生は、かねてより病氣療養中のところ、二月十三日にご逝去されました。

岡田先生は平成二年に財団法人北方文化振興協会理事、平成八年に当館第二代館長に就任され、当館の開館前後より鋭意指導し、振興発展にご尽力されました。

ここに永年にわたるご厚誼を感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆職員の異動

退職（3月31日付）

副館長 松本 繁
管理課主査 池田 均
解説員 村井友香（旧姓大西）「期間満了」

転出（4月1日付）

管理課管理係長 梅川 竜二
（北海道水産林務部治山課森林保全グループ主査へ）

転入（4月1日付）

副館長 椎名 惟義（北海道立青年の家所長より）
管理課管理係長 芦口 由紀
（檜山教育局生涯学習課主査より）

採用（4月1日付）

管理課主査 谷内 輝勝（網走市立美術館長より）
解説員 菅原 章子

◆寄贈資料 2004.1-3

○富山市の呉人恵氏よりコリヤークの衣服2点が寄贈されました。

○ロシアのバルボーリナ、アンナ アレクセーエブナ氏よりドルガンの衣服1点が寄贈されました。

◆寄贈図書 2004.1-3

神沢利子2004 『鹿よ おれの兄弟よ』福音館書店
米村衛2004 『シリーズ「遺跡を学ぶ」北辺の海の民』新泉社
講談社2004 『週間日本の街道91 北海道松前街道と札幌本道』講談社
五十嵐聡美2004 『アイヌ絵巻探訪 歴史のドラマの謎を解く』北海道新聞社
菊池俊彦2004 『環オホーツク海古代文化の研究』北海道大学大学院文学研究科
河野廣2004 『幻の馴鹿部隊 補遺』河野廣

◆観覧者動向 2003.4-2004.3

常設展示（通年）	23,238名
特別展（7/19-9/28）	4,249名
企画展（2/7-3/28）	2,236名
ロビー展（年4回合計）	2,597名

◆行事案内 2004.5-7

特別展／展覧会／ロビー展

特別展 7/17（土）-9/26（日）
北の遊牧民ーモンゴルからシベリアへー
展覧会 4/29（木）-5/16（日）
岩崎昌子コレクション
カナダからやってきたイヌイットの壁掛け展
ロビー展 6/1（火）-7/4（日） 収蔵資料展

講演会・講座・解説会・講習会

4/29（木）、5/15（土） 展覧会解説会
7/3（土） 講習会「モンゴル・ゲルを建てよう」
7/18（日） 特別展関連講演会
「草原とツンドラの遊牧民」
7/18（日） 講座 「特別展解説会」
7/31（土） 講習会 「モンゴル風蒸餃子

「ポーズ」を作ろう」

博物館クラブ 土器をつくって焼いてみよう

5/15（土） その①土器の形をつくろう
7/24（土） その②土器を焼いてみよう

◆行事報告 2004.1-3

講習会

3/14（日） 作って歩こう・かんじき体験

博物館クラブ

2/28（土） 宝ものをに入れる箱をつくろう
3/13（土） 親と子のかんじき歩き体験

北方民族博物館だより

—53号—

2004年5月9日

編集・発行 北海道立北方民族博物館

〒093-0042 網走市字潮見309-1

（天都山・道立オホーツク公園内）

TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889

e-mail:hoppohm@ohotoku26.or.jp

ホームページ <http://www.ohotoku26.or.jp/hoppohm/>